

乳頭縮小・乳輪縮小・陥没乳頭術とは

乳頭縮小・乳輪縮小・陥没乳頭術とは、乳頭または乳輪部分をメスで切開し、切除・縫合などを行いご希望のデザインに整える手術です。本来の機能を維持しながら、サイズだけではなく形も整えることができます。色素の濃い部位で行う手術のため、術後も肌の色が薄い部位と比べて傷跡が目立ちにくいといわれています。

乳頭縮小・乳輪縮小・陥没乳頭術後の状態・ケアについて

- ・術後は胸に傷があり、細い糸で縫合している状態です。傷跡や周辺が下着で擦れることで傷口にも負担がかかり、痛みも伴います。ブラジャーを着用いただくことは可能ですが、傷を圧迫しないようなゆるめのものにしてください。抜糸が済んでからは傷口も安定してきますが、術後1ヶ月程度は締め付けのないやさしいタイプの下着や洋服が望ましいです。
- ・1~2週間後に来院していただき、抜糸を行います。（術式や経過により異なります）
- ・手術から3日間は体を洗う際になるべく創部を濡らさないようにしてください。洗顔や洗髪は可能です。3日目以降は胸元周辺も含め洗っていただいても大丈夫ですが、血流が良くなることでの腫れを防ぐため、ぬるま湯での軽いシャワー程度にしてください。抜糸が完了してからは入浴していただいて問題ありませんが、術後1ヶ月程度は創部に負担をかけないように、強く擦ったりせず優しく洗うようにしてください。
- ・強い腫れは、半月程度で引いていきます。
- ・内出血については、個人差がありますが数週間前後で消失します。
- ・飲酒は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、1週間ほどお控えください。
- ・運動は血流が良くなり腫れが長引く原因になりますので、軽い運動は1週間、激しい運動は1ヶ月程度お控えください。

※経過観察をする目的で施術部位の写真を撮らせていただきます。撮影させていただいた写真に関しては、厳重に保管し患者様との経過観察以外で無断使用することはありませんのでご安心ください。
※気になる症状がある場合には1ヶ月程度様子を見てください。
1ヶ月以上経過しても違和感が継続している場合、クリニックまでご連絡ください。

乳頭縮小・乳輪縮小・陥没乳頭術で生じる可能性のあるリスクについて

【内出血】

手術部位の周辺に内出血が生じる場合があります。最初は青黒い色みでその後黄色→肌色と変化していきます。出現や消失には個人差がありますが、数週間かかる場合があります。

【左右差】

手術直後より左右差が出ることがあります。ダウンタイム中はとくに左右差を強く感じる場合があります。元々人体は左右非対称であり、また個々の手術部位の形、筋肉の動き、普段の生活上の癖などが原因で、完全な左右対称にはならない場合があります。

【痛み】

局所麻酔の注射時に痛みがあります。術中は麻酔の効果で痛みはありませんが、術後麻酔が切れると痛む場合があります。痛みがある場合は処方される内服薬をお飲みください。

【腫れ】

当日より若干の腫れが起こります。概ね1ヶ月ほどで腫れは引いていきます。

【感染】

術後、感染が生じると傷口の治りが悪くなったり、腫れが強くなる場合があります。場合により、抗生剤の内服や外科的処置が必要となる可能性があります。

【肥厚性瘢痕（ケロイド）】

ケロイド体質の方は傷が治る過程で皮膚が盛り上がってしまう場合があります。その場合、別途瘢痕に対する治療が必要になります。

乳頭縮小・乳輪縮小・陥没乳頭術をお受けいただけない方

妊娠中の方、妊娠している可能性がある方、授乳中の方、親権者の同意がない未成年の方、手術部位に怪我や炎症がある方、麻酔剤にアレルギーをお持ちの方、その他医師が不可と判断した場合は手術を受けられません。

©2024 医療法人社団 桜恵会

THE ONE.